



森のなかま

2023年 10月号

NO. 184 (継続329号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 河西 静夫
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

やどりき水源林のつどい

【やどりき水源林のつどい実行委員会 主催】 協賛：松田町
日時：2023年8月5日(土) 場所：やどりき水源林
参加者：332名
スタッフ：インストラクター 8/4準備 39名、8/5当日 66名
県、かながわトラストみどり財団、松田町、出展者

(記：三浦 由香子[㊦]、写真：相澤 恵美利[㊧])



かながわ水源林の森林づくり運動や森林パートナーの活動を広く紹介する水源林のつどいは今回、第20回となり、およそ400名が松田町寄のやどりき水源林につどい、森での時間を楽しみました。

午前中は水源林トレッキングや森林の癒やし体験、水生生物観察、成長の森見学などの自然を満喫する体験が行われました。

昼からの式典では、来賓者の紹介や森のコンサートとして緑の大使によるアコースティックギターの弾き語り、寄囃子保存会の演奏が行われました。

午後からは遊び・学びのコーナーで葉巻笛やロケットラワン、ブンブンゴマなど作成や、丸太切り体験、森の仕組みや生き物の観察の体験、緑の大使と緑の少年団による募金活動などが行われました。様々な形で“水源の森への理解を深めてもらう”1日となりました。



水源林トレッキング



森林の癒やし体験



水生生物観察



成長の森見学

【森林技術部会主催】

間伐研修会①

日時：2023年9月10日（日）

場所：塚原ボランティアフィールド

講師：統括 滝澤⑤、真貝⑪、斉藤⑬、岩田⑭、石井（裕）⑮、中澤（靖）⑯

参加者：湯浅⑪、安井⑫、國弘⑭、鈴木⑭、水野⑭、相澤⑮、石垣⑮、角石⑮、小国⑰、高谷⑰、野口⑰、広浜⑰、藤田⑰、文原⑰、三浦⑰、三好⑰、柳沢⑰

（記：相澤 恵美利⑮、写真：滝澤 洋子⑤）

2023年度1回目の間伐研修会①が塚原ボランティアフィールドで開催されました。

天気は曇りがちでしたがまだまだ蒸し暑い1日でした。

参加者は（講師含め）23名で、5班に分かれて研修が行われました。

今回の研修のテーマは各自の技術向上とインストラクターとして県民参加を想定した基本的な対応の確認です。

オリエンテーションでは、ネットワーク活動の間伐作業中に起きたヒヤリハット事故（引っ張っているロープが切れた）の事例から間伐マニュアルが改訂された事についての説明がありました。

変更点は、作業前に作業で使用する道具の点検、作業終了時の道具の点検、作業手順毎のチェックポイントの追加、安全チェックシートの追加部分でした。各道具を点検して異常があったらリーダーや責任者に伝える事、異常があった道具は使用しない事、特にロープは念入りにチェックをする事などの注意がありました。

オリエンテーション後、体操を終えて倉庫に班ごとに道具を取りに行き、作業現場に向かいました。各班各自で今日の安全目標を宣言して、熱中症に注意、足元注意、安全第一で作業に入りました。各班3～4名講師1名という少人数だった事もあり、間伐の手順をひとつひとつ確認しながら作業を行いました。カラビナ付きロープを枝にかける時のカラビナの向き、スリングと滑車の向き、伐倒後はロープを回収してから枝払いに入るなど丁寧な指導を受けました。受け口、追い口を作る際も途中で念入りに角度を測り、鋸を持つ癖も確認、どうしてそうなるのか？一般の参加者に対してはどのように説明すればいいのか？などを、時には厳しく、時には笑いありで、話し合い意見交換をしながら作業を行いました。



伐倒した木の追い口も水平に綺麗に切れてツルが均等に残った時は伐倒方向もピッタリでツルの重要性についても確認できました。

作業終了後は道具の清掃、点検、ロープは特に念入りに確認し、最後は樹幹から入ってくる

日差し、下草の様子、風通しなども確認して間伐研修会を終えました。各班皆汗だくになっての作業でしたが意見交換もでき、スキルアップに繋がる研修になりました。



森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

木質材料には鉄などの金属やプラスチックが持ち合わせていない良さがあります。それが木のぬくもりです。木質内装の部屋、木製品などに見られるぬくもり、それは木の温かさ、やわらかい感触、木目や材色の見た目の穏やかさなどによって現れます。そのぬくもりがストレスを緩和し、心にゆとりをもたらし、快適な生活へと導いてくれるのです。

フライパンの取っ手が木でカバーされていれば熱は伝わらず熱さを感じません。丸太の断面を見ると、根から水を吸い上げるようなパイプのような中空の穴がたくさん集まっています。この中空の空気が熱を遮断するので熱さを抑えているのです。このことは木の床ではコンクリートなどに比べて足が冷えにくいことにもつながります。足の熱が放散するのを中空のパイプが抑えているからです。モノを木質材料の上に落としたときには木より硬い石やコンクリートの場合よりも壊れにくいのも木材のパイプ状の組織がクッションの役目をして衝撃を緩和しているからです。

家具などは手や足が接するので感触が必要になります。木はガラス、プラスチック、金属などに比べて上に述べたように温かく感じ、軟らかい感じがします。乾湿感はどうでしょうか。木は他の材質に比べて比較的さらっと乾いている感じがします。木の感触の良さはこのようなものによるものです。

床の上を歩いたときの歩行感、それは粗滑感によるものです。素足で床を歩き歩行感を調べると木質の床は塩化ビニルなどの床は滑りやすいのに比べて滑りにくい、歩きやすいのです。

木材の年輪の凹凸とその間隔の不規則さが表面の粗さにつながりそれが滑りにくくしているのです。

木質内装の部屋にぬくもりをもたらす要因がほかにもあります。それは木目や材色です。柾目のように単純な直線を並べた年輪によってできる縞模様の木目にも心はなごみます。それが等間隔でなく不規則で微妙に揺らいでいるからで

第53回 木に触れて
その良さを知る

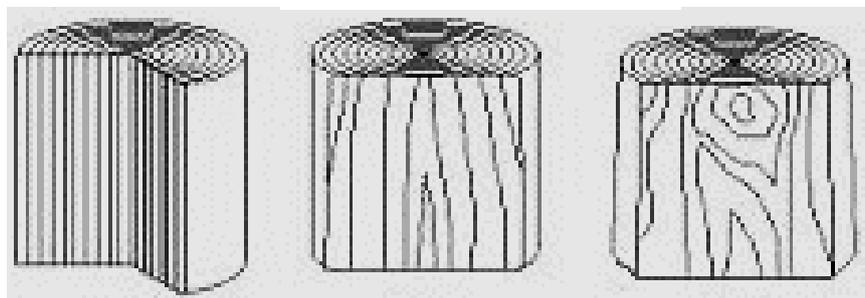
東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏

す。規則正しい並びよりもむしろ不規則のほうが自然に感じ、こころがやすらぐのです。板目の模様も自然が作り出す造形美、目を楽しませてくれますし、木材の色も自然そのもの、親しみを感じさせます。

小学校の木造の教室でアンケートを取ると自然感があり、温かく、落ち着くといった答えが返ってきます。木造率の異なるモデルルームでの感想では木造率の高い部屋のほうが温かいという結果が出ます。興味あることには簡単な足し算などの作業をすると木造率の高い部屋のほうが回答率が高いのです。木材使用率の違いが知的作業に影響を及ぼし、内装に木材を適切に使用することが教室に限らず作業能率の向上につながるのかもしれませんが。教室の木質内装率が高いと生徒の疲労も少ないという結果も出されています。落ち着きやすらいだ気持ちで学習できる木質内装の教室は情教育にも役立ちそうです。

もう一つ木がぬくもりをもたらすもの、それが木の香りです。スギやヒノキの材の香りを嗅ぐと脈拍が下がりリラックスする傾向にあることも確かめられています。木材の香りが気分を鎮める作用があることも脳波の測定からわかっています。

製材方法による木目の出方



柾目

板目

歪目

温暖化のもとになる二酸化炭素を吸収し育つ木を利用することは炭素を貯留することにもなり温暖化防止にも役立つのです。

イラスト広報 長尾(大塚)晴子 11期

次回(第54)の掲載は12月号になります。

活動短信

今回の掲載はR5年6月26日からR5年7月29日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

10月（神無月）（旧暦9月長月）の二十四節気と雑節、鎌倉の田んぼ

二十四節気：寒露 10/8 霜降 10/23

雑節 土用（10/21）。立冬の前日までが秋土用。土用は年4回、季節の変わり目を乗り切る期間です。田んぼ 10月はいよいよ稲刈りです。水の抜けない谷戸の田んぼでは、田舟の上で稲をしばります。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
（できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。）

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付:令和x年x月x日(曜日)できれば時間と天気も
場 場所(例:相模原市緑区 長竹承継分収林)
参 参加者 人数
県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部
水源環境保全課 水源の森林推進グループ
財(公財)かながわトラスみどり財団、看護士
スタッフ 例 小田原市森林組合XX様
例 川崎市公園緑地協会・XX様
イ インストラクター① (○数字:期) 研:研修枠
以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)
活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 横浜市立上瀬谷小学校

環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～

「土の中の生き物ウォッチング」

日 令和5年6月26日(月) 8:30～12:30 晴れ
場 上瀬谷小学校(中庭、教室)
参 2年生51名、教師2名
イ L井出①、足立④、大原⑬、國弘⑭、大森⑯
小国⑰

対象学年が低学年の児童ということで、土との触れ合いを通じて体験的に土を学ばせることを目的にテーマを組んだ。

<実施内容>

1. 土の採取:有機物の多い中庭、少ないグラウンドで土を採取。
2. 教室での抽出:土を教室に持ち帰り、白いシートに広

げ生物を抽出。

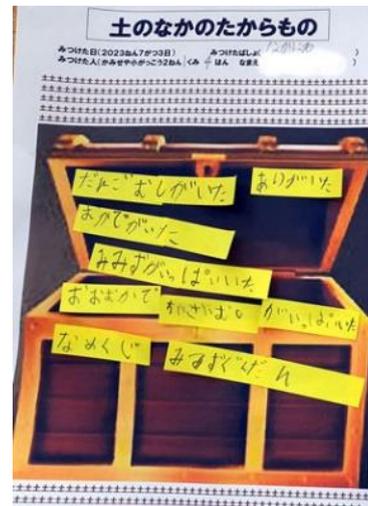
<発展>

1. 見つけた生き物を付箋紙に記入しワークシート(宝箱)に貼り付け。土の中にはいろいろな生物が存在していることに気付かせた。

(写真右)

2. 有機物の多い中庭、少ないグラウンドで、

どの程度生き物の数が違うのか模造紙上で検証。違いの理由を考えさせた。



<解説>

分解者である土壌生物の役わりについて、パワーポイントで解説。豊かな土を作る土壌生物は

「たからもの」であることを強調した。

授業を通して、児童は土に対する興味・関心を深め、土にはいろいろなものがあり、生命を含み、生命にとっとって土は欠かせないものであることなど、土に対する見方・考え方を深めることが出来たのではないかと思います。

(記・写真 井出 恒夫 ①)

◆ 県民参加の森林づくり (山北町都夫良野 下刈り)

日 令和5年7月15日(土) 10:10～11:50 くもり
場 山北町都夫良野(共和財産区有林)
参 55名
スタッフ 町:山北町農林課 尾崎様、中村様

用具配備:山北町森林組合様

看護師:青木様、財団:豊丸課長様、藤本様

イ L内野⑨、滝澤⑤、湯浅⑪、江上⑬、鈴木⑭、大見⑯、堀口⑰、高谷⑱、三浦⑲、森本⑲、山本⑲

予報通りの曇天でしたが、下刈りには好都合な天候になりました。

9:10に山北町役場駐車場を5台のマイクロバスで出発し、

現地でのオリエンテーションを開始。

本日の安全目標「近接作業と熱中症に注意」を内野リーダーが参加者に伝え、作業内容、ストレッチ体操とヒル対策を行なった後に作業エリアに班ごとに分散し、10:10から作業を開始しました。

作業エリアへのアプローチも下見時に豊丸課長や内野リーダーが作業路の刈り取りを行なって頂いたお陰で、スムーズに移動できました。昨年以来の活動のためか、雑草の背も高く、つる類がかなり多く植樹木に絡みついていた。全く見通しの効かない「ヤブ」状態でしたが、参加者の皆様が手慣れた「カマ捌き」と絡まったつる類の除去を手際よく実施頂いたため、風景が見違えるようになり変わりました。(作業開始時に荷物を置いた場所すら直ぐに見つけられない程)



植栽木はかなり大きくなっている

作業エリアは、若干の蒸し暑さはあったものの、山を抜ける風に助けられ、体調を崩される方は居られなかったと思います。ハチにも遭遇せず、ヒルの被害も2名の方のみ、ヒヤリハットの発生もありませんでした。

作業終了後、道具類返却場にて道具類に手入れを行ない、各班に分かれて「つぶらの公園」に移動。



丁寧にツルの除去も行う

昼食後、マイクロバスにて山北駅に戻り、駅前で解散となりました。解散後は山北町農林課様より支給頂いた「さくらの湯」無料券で汗を流されて帰宅される方も多く居られたようです。

夏場の下刈りでこのような天候に恵まれたこと、体調不良や怪我の発生がなかった事は大変良かったと思います。

(記：山本 拓司⑰、写真：内野 ミドリ⑨)

◆雪印メグミルク労働組合海老名工場支部

(自然観察・クラフト体験)

- 日 令和5年7月23日(日) 10:00~15:00 晴れ
- 場 やどりき水源林
- 参 大人9名、子供4名
- イ L 牧石⑭、上田⑩

関東甲信と東北の梅雨明け発表の翌日、雪印メグミルク労働組合海老名工場支部(自然観察・クラフト体験)の活動を実施した。当日は県内5地点で全て最高気温30以上の「真夏日」でしたが、やどりき水源林内は心地よい風が通り汗をかかない状況で活動ができた。午前中は林道コース、Bコースで自然観察を実施。集会棟前の広場に集合し、挨拶、インストラクター紹介、準備体操を行ったのち、自然観察をスタート。最初に「森は水のふるさと」の看板を前に、私たちが普段、使用している水は森林からやってきますの説明実施。自然観察中、子供たちが一番興味を示したのは「コースの各所に設置されている樹名板」を見つけると喜んで質問形式の内容を読んで楽しんでいました。Bコース途中の沢では、沢の水に触れ「冷たくて気持ち良い」との感想があった。観察の最後はヤマビルに注意しながら「スギの巨木」を見学した。



午後からは「クラフト体験」プログラムの丸太切り、コースター、プレート、スマホ

台を作成。コースターは紙ヤスリ80番で表面を綺麗に磨いたのちクリアラッカーの塗装を施す



と木目が引き立ち大変綺麗なコースターが完成。子供たちは、丸太切りのプレートにマーカーペンで絵や色付けを行い、クリアー塗装、穴開け、組み紐を取り付け首から掛け満足笑顔でした。スマホ台は親子協働作業で作成を行い、見事なスマホ台が完成した。最後に完成した作品の前に参加全員で記念撮影を行い活動を終了した。

(記、写真：牧石 稔⑭)

◆ アルバック 森林再生プロジェクト

日 令和5年7月29日(土) 9:30~12:30 晴れ

場 やどりき水源林

参 50名 (大人39名 子供9名)

県 宮崎様 黒田様

イ L三浦⑰ 徳岡⑪ 松本⑪ 湯浅⑪ 内田⑰

小国⑰ 藤田⑰

第4回目森林再生プロジェクト、21世紀の森から初めての活動地となるやどりき水源林にて夏の森で汗を流しながら初めてのグループ作業となる立木伐倒と自然の中に飛び込んでの観察となりました。



〈間伐班〉

アルバック様24名(内子供2名)インストラクター3名で現地(H19成長の森)に11時到着。3班8名編成で約50分間の「伐倒作業」に取り組んだ。

対象木は小径木で胸高直径8cm以下と細く、伐倒経験にはちょっと物足りなさもあったが大径木と同じ要領で伐倒技術を説明し全員手鋸で受け口・追い口を作り滑車を掛けてロープを全員で引っぱった。



参加者は全員伐倒作業が初めての経験の為、決められた方向に「つる」が効いてスーとゆっくり倒れていくカツラの木に、隣のメンバーと一緒に思わず全員が拍手で喜びを共有していたのは感動的でした。

その後伐倒木は2mに玉切り各自1本ずつ運び込み事故も無く無事一連の作業は終了した。

今回は短い時間ではあったが会社の目的である「森林学習と社内交流」には多少貢献できたように思われました。

(記：徳岡 達郎⑪ 写真：三浦 由香子⑰)

〈水生生物観察班〉

2歳から10歳のお子さん9名を含む25名の方が参加しました。

集合前に川の状況を確認し、参加者の年齢などを鑑みて川まで下りる時に段差が少なく、水の流れが穏やかで比較的浅い場所が多いマチガザワ合流付近で活動を行うことにしました。(活動日前に雨が少なかったため、マチガザワからの水は流れておらず、本流の水も少なく感じました。)

班ごとに水生生物の採集方法や注意事項を説明後、タモ網片手に川に入り、石を動かしたり、場所を変えながら、水生生物採集を行いました。小さなお子さんたちは、たくさんのおたまジャクシやカエルを見たり捕まえて大喜び。大人もお子さんたちに負けまいと大物!?を狙っているようでした。

猛暑で大変暑かったため、いつまでも川の中にいたい。。という参加者全員の気持ちがインストラクターに伝わり、小さな水生生物観察の時間は取らずに時間が許す限り川で採集活動を行



い、最後に各班の採集した生物を見て回りました。お子さんが「かじか」を触りながら「体がヌルヌルしてるよ〜」「可愛い顔してる〜」と話してくれました。これも立派な観察です!

参加者全員に、やどりきの自然の中で澄んだ川の涼を感じながら、時間いっぱい楽しんでいただきました。

(記・写真：内田 祐子⑰)

2023 年度第二回森林探訪 募集中

初冬の表丹沢・ヤビツ峠周辺をめぐる

開催日：2023 年 12 月 2 日(土)

参加費：1,500 円 (当日徴収します。)

集合：小田急秦野駅改札前 8 時 00 分集合

解散：蓑毛バス停 15：00 頃

解散後、路線バスで小田急秦野駅へ

コース：小田急秦野駅北口バス 4 番乗り場から

ヤビツ峠行乗車 終点下車(50 分) 

→岳の台→菩提峠→寺山富士見 

→ヤビツ峠  →蓑毛バス停  (解散)

概要：岳の台、菩提峠などヤビツ峠の周辺を廻り、柏木林道を蓑毛まで下るコースです。紅葉と、針葉樹林/広葉樹林/草原/スギ・ヒノキの人工林と様々な自然が楽しめます。

歩行距離：約 8 km 標高差：ヤビツ峠→岳の台:+138m,ヤビツ峠→蓑毛:-451m

持ち物：昼食、飲み物、雨具、シート

定員：50 名(申込順) 申込締切：2023 年 11 月 25 日

両方のイベントともに、

申込先：認定 NPO 法人 かながわ森林インストラクターの会 自然観察部会

e-mail : kanagawa_shizenkansatu@yahoo.co.jp へ

森林探訪名、参加者全員の氏名・年齢・電話番号・住所を記載してください

問い合わせ：TEL 090-9675-3623 担当 松永



第 52 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム

水源環境保全・再生かながわ県民会議は、「水源施策の 15 年の歩みと将来像～神奈川の森林(もり)と水未来につなげるために～」をテーマに第 52 回を令和 5 年 10 月 29 日(日)にパシフィコ横浜会議センターで開催することになりました。

案内パンフレット/申し込みフォームに関する URL を添付いたしますので内容ご確認のうえ、フォーラムに参加くださいますようお願いいたします。フォーラムへの参加は定員 200 名です。申込フォームに従ってお申し込みください。活動展&パネル展への入場は自由です。

なお、上記案内によらない参加申し込みについては 10 月 10 日までに、氏名 期 メールアドレス、電話番号を記載して下記アドレスにお申し込みください。

申し込お問い合わせは p-m.ued@mist.dti.ne.jp 090-4022-5231 ⑩上田啓二まで。

第 52 回県民フォーラムに関する URL は次のとおりです。

【申込フォーム】

<https://e-ve.event-form.jp/event/58736/52forum>

【県 HP】

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/pb5/cnt/f7006/forum_team/52_osirase.html

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

森の案内人が土日に案内をしています。今年からの新しいメンバーも加わり、案内人一同皆様の訪問をお待ちしています。

「水源林ニュース」

9月号「初秋の風を感じながら水源林をのんびり歩いてみませんか～」を発行しました。こちらからご覧ください。

https://www.forest-kanagawa.jp/4field/news/new_s207.pdf



初秋の風を感じながら
水源林をのんびり歩いてみませんか～

9月に入り、朝夕涼しい風が吹くようになりました。やどりき水源林を歩くと、木々の葉や花々に心癒されますが、足元や周囲に目を向けると、いろいろなシダやコケを見ることが出来ます。水源林をのんびり歩いて楽しんでみてはいかがでしょうか。



森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当：森本 利弘)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

河西 静夫
skasai0618@gmail.com
Tel : 090-1227-6209

<電子配信会員向け担当> 笠原かずみ
Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】河西 静夫
skasai0618@gmail.com
Tel : 090-1227-6209

【別冊】小国 一男
Mail: ka-oguni@ab.auone-net.jp

原稿は随時受け付けています。

● やどりき水源林問合せ:

(公財)かながわトラスみどり財団

TEL : 045-412-2255

FAX : 045-412-2300

● ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: midori@ktm.or.jp

(かながわ)森林インストラクターの会

ホームページ <http://www.forest-kanagawa.jp>

E-mail k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

編集後記

★ 猛暑が続く中、20年使用していたエアコンがご機嫌斜めになりました。自分なりに点検し原因も突き止めましたが、湿度の影響を受け易くなった電子部品の経年劣化でした。

暫定でヘアードライヤーで乾燥空気を送り4、5日だましまし使い、その間に新品購入しました。すぐに冷えます。快適です。痛い出費でしたが20年も働き、そして暫定対応の自分にもご苦労さんでした。(松本)

★ 「おにやんま君」を知っていますか? なに、もう使っている? 失礼しました。僕は正直なところ間抜けな格好だな、とバカにしていました。ところが、先日ソイツを付けた相棒と並んで除草していたら、彼に集って来た蚊が、すべて回れ右をして、こちらに向かってきたのを目撃。ヒエ～ッ! 相棒によれば、アシナガバチも忌避するか。あ、これはあくまで個人の感想です、ハハハ。(竹内)

★ 自然観察会の下見で舞岡公園に通っています。猛暑の夏から残暑の秋を迎えどうなるかと案じていましたが、動植物には確実に季節が進んでいることが見て取れました。スズメウリの可愛い実をpostします。(河西)



かながわしずくちゃん Twitter は下記 URL で見ることができます。

かながわの水源地環境の
保全・再生をめざして

https://twitter.com/kanagawa_sizuku



かながわ森林インストラクターの会は「緑の募金」の支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

便振替口座 00230-0-2454 **かながわ森林インストラクターの会**
宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人: 河西 静夫
広報部: 黒川 敏史、松本 保
笠原 かずみ 長尾晴子 竹内明彦
小林照夫 小国一男 小池宗子
支援: 大原正志 吉田郁夫